

て操業した海域であるが、昨年の36%に続いて今度も全捕獲の30%を占める主要漁場となっており、対称が大抹香である点、生産歩留り向上の面から非常に有望な漁場であり、天候をうまく利用すれば今後も北洋抹香漁場の大きなウエイトを占めるであろう事が予想される。又、アラスカ湾海域であるが(昨年度は全捕獲の18.8%、今度は23.6%)、この漁場は鯨体小さく、歩留り低下は懸念されるが、天候かわし等、一時的な漁場転換の場としての利用価値は充分あると思う。尚、今年度はソ連船団との接触はまったくなく、その影すら見る事が出来なかつた。

質 問

(大村)以前のマッコウクジラと現在で、班紋などのような体色に相違はみられなかつたか。

(甲藤)特に、気付いたことはない。

(加藤)私がみたところでも、特に、差は認められなかつた。

(奈須)45°N付近では、南北で水塊が異なっているが、餌料組成上何か差はみられなかつたか。

また、500頭余り発見した群から捕獲した鯨の性比はどうか。

(甲藤)餌料については手もとに資料がないので分らない。性比は大部分がメスであり、そして約半数が妊娠していた。

操業概要とその結果(2)

安 井 敬 一(極洋捕鯨株式会社)

近年のヒゲ鯨漁場を眺めると、既に、知られているように、12-15次北鯨までは、180°以東の50°N以北、特にアラスカ湾を中心に分布していた。このアラスカ湾における操業は、年々漁場が南偏するとともに、天候および発見状況等により、余り行なわれていないのが実状で1968年度漁期(17次北鯨)は、逆に180°以西で実施された。

近年7-8年における、日本およびソ連による捕獲状況は次の通り。

	ナガスクジラ	イワシクジラ
日本1961(10北)-1968(17北)	8,915	13,641
ソ連1961(10北)-1967(16北)	8,103	5,699
計	17,018	19,340

1) 操業概要

第2極洋丸船団は、5月15日に操業を開始し、8月29日捕獲枠の734BWUを達成したが、その間の操業日数は107日であつた。

操業に先立ち、調査船4隻による調査結果を基にして、45°E、160°E付近より操業を開始した。今漁期も、当初より東経域におけるイワシクジラの発見が連続し、5、6月と高気圧の影響を受けて好天に恵まれ、捕獲、生産ともに順調に進み、操業開始後50日目の7月3日には、シロナガス換算400頭に達した。しかし、日本の2船団による反復操業に起因して、発見鯨も一時減少したため、捕獲枠の多い当船団は、漁場拡大の意味で先航調査を実施しつつ、7月15日より

東進した。

7月13日、 $170^{\circ}$  W線に達したが、鯨群の移動速度が速いためか発見に困難を極め、さらに $170^{\circ}$  W以東海域の気象条件悪く、広域にわたりガスが発生した。従つて、14日より再び反転し、操業頻度の少ない列島の南側沿いに西進し、以後ステルメイト・バンク付近より南下し、過去に実績のある漁場において操業した。

しかし、東経漁場も7月下旬より天候悪化し、ガスのため稼働日数少なく、天候回復に日時を要すると判断し、7月26日からベーリング海を経て急速東進を実施した。29、30日はベーリング海において、ナガスクジラを主体に操業し、天候回復とともに急速南下し、アラスカ漁場に向かつて東進操業を続け、8月3日に大洋漁業との共営枠534頭BWUに達した。

アラスカ漁場は、北側の1日実績漁場に発見少なく、また天候の悪条件も重なり、主として南側海域でナガスクジラ、イワシクジラを混獲し、8月中旬迄操業した。

以後、捕獲枠の残りも少なくなつたため、生産歩留り向上を計る目的で東経漁場のイワシクジラの捕獲に重点を置き $168^{\circ}$  W線より北上して8月23日にベーリング海に達し、その後アツツ島周辺へ向かつた。

しかし、西方の気象条件悪化の兆候が見えたため、西進は不利と判断し、ベーリング海に留まり、ナガスクジラを主として操業を行ない、8月29日捕獲枠734頭BWU(ナガスクジラ521、イワシクジラ2,841)に達し、17次北鯨を終了した。

## 2) 漁区拡張

1967年度(第16北鯨)より、制限漁区が $45^{\circ}$  Nから $40^{\circ}$  Nに拡張されたが、 $45^{\circ}$  N~ $40^{\circ}$  Nにおける捕獲状況についてみよう。1967年度では $170^{\circ}$  E~ $175^{\circ}$  Eにおいてヒゲ鯨操業が行なわれ、ナガスクジラ41頭、イワシクジラ68頭、全体の3.2%、マッコウクジラは $175^{\circ}$  W~ $155^{\circ}$  Wにおいて816頭、全体の27.7%が捕獲された。

1968年度(第17北鯨)は、操業実績および調査結果により、ヒゲ鯨、マッコウクジラともに $45^{\circ}$ 以南における操業日数多く、ヒゲ鯨では $170^{\circ}$  E~ $180^{\circ}$  E間においてナガスクジラ20頭、イワシクジラ598頭、全体に対する11.0%を捕獲した。また、マッコウクジラの操業海域は、1967年度に比較して東方に延び、 $175^{\circ}$  W- $135^{\circ}$  W間において932頭、全体の31.1%が捕獲された。

なお、1968年度の $45^{\circ}$  N以南における操業内容は次の通りである。

	操業日数		捕 獲	
			ナガス	イワシ
第二極洋丸船団	5月	8日	8	262
	6 "	4 "	6	158
	7 "	1 "	2	11
	8 "	1 "		10
	計	14日(全体の13%)	16	441

図南丸船団	5月 4日	2	106
	6月 2日	2	51
	計 6日(全体の11%)	4	157
合計	20日	20	598

上の表から、 $45^{\circ}$  N以南における操業日数は、漁期初めの5、6月にもつとも多くなつており、その要因としては天候、海況および発見状況等があげられる。

次に、1日1隻当りの捕獲について比較すると次の表のようになり、1968年度漁期の特徴として、イワシクジラの値の急上昇に対し、マッコウクジラの値が下降している点が注目される。

一日一隻当りの捕獲頭数

年度	ナガス	イワシ	計	マッコウ
1967	0.77	1.28	2.05	3.55
1968	0.08	2.53	2.61	2.80

その原因として、次の3点があげられよう。

- ① 1967年度の操業・調査結果を基に、イワシクジラ漁場の把握が容易に出来た。
- ② 南側に好天候が続いた。
- ③ 海況等によるイワシクジラの発見が続いた。

$45^{\circ}$  N以北については、各鯨種ともに両年度漁期における差は、殆んどみられていない。

一日一隻当りの捕獲頭数

年度	ナガス	イワシ	計	マッコウ
1967	0.44	1.87	2.31	2.67
1968	0.43	1.95	2.38	2.70

北洋におけるイワシクジラ漁場も、南極洋と同様に南偏傾向を示しており、また、北洋漁場では面積が小さいために循環操業が必要となる。従つて、1967年度から実施された $45^{\circ}$  Nから $40^{\circ}$  Nまでの漁区拡張は有意義であつた。

なお、 $170^{\circ}$  E以西- $159^{\circ}$  E間ではソ連船団が操業を実施しており、日本においても、この海域における漁区拡張については、検討が必要と思われる。

(質問)

(石野) 漁場拡大による資源量への影響はどうか。

(大村) 捕獲制限が設けられているため、ないと思う。

付表 北鯨に於ける45°N以南の捕獲について(日本船団正午位置による)

16北

経度 鯨種	170~ 175	175E~ 180	180~ 175W	175~ 170	170~ 165	165~ 160	160~ 155	155~ 150	150~ 145	145~ 140	140~ 135	計
F	41											41
Se	68											68
Sp	15			109	59	386	262					831

17北

経度 鯨種	170~ 175	175E~ 180	180~ 175W	175~ 170	170~ 165	165~ 160	160~ 155	155~ 150	150~ 145	145~ 140	140~ 135	計
F	19											19
Se	509	75	4									588
Sp	3			70	153	259	201	7	63	53	123	932

全体比について

16北

	全捕獲	B.W.U.	45°以南捕獲	B.W.U.	全体比	
F	844	472	14	20.5	4.9%	} 3.2%
Se	3,474	579	68	11.33	2	
Sp	3,000		831		2.77	

17北

	全捕獲	B.W.U.	45°以南捕獲	B.W.U.	全体比	
F	729	364.5	20	10.0	2.7%	} 11.0%
Se	3,819	636.5	598	99.63	15.7	
Sp	3,000		932		31.1	

45°N以南の捕獲について

16北

		操業日数	1日当り捕獲	C. D. W.	1日1隻当り捕獲
F	41	5	8.2	53	0.77
Se	68	5	13.6	53	1.28
	109	5	21.8	53	2.05
Sp	831	26	32.2	234	3.55

17北

		操業日数	1日当り捕獲	C. D. W.	1日1隻当り捕獲
F	20	20	1.0	236	0.08
Se	598	20	29.9	236	2.53
	618	20	30.9	236	2.61
Sp	932	37	25.2	333	2.80

45°N以北の捕獲について

16北

		操業日数	1日当り捕獲	C. D. W.	1日1隻当り捕獲
F	803	161	4.99	1,825	0.44
Se	3406	161	21.16	1,825	1.87
	4209	161	26.15	1,825	2.31
Sp	1826	86	21.23	683	2.67

17北

		操業日数	1日当り捕獲	C. D. W.	1日1隻当り捕獲
F	709	142	5.0	1,650	0.43
Se	3221	142	22.68	1,650	1.95
	3930	142	27.68	1,650	2.38
Sp	1847	76	24.30	684	2.70